

ふれあい

大代地区コミュニティ推進協議会

事務局：大代地区公民館 ☎364-8442

新年を祝う会を終えて

大代地区コミュニティ推進部

恒例となりましたが、平成十七年の新年を祝う会は、一月八日(土)に大代地区公民館において、ご来賓を始め百三十四名の方々をお迎えし盛大に開催され、盛会裡に終えることができました。

今回の開催については、コミュニティ推進部で準備会議を行い、昨年の反省から土曜日と決定しました。参加者の取りまとめを各区の区長さん方にお願ひし(南区はコミュニティ推進員の方へ)、そのほか各種団体の会長さん方にも依頼しましたところ、(東区)十七名(南区)四十二名(中区)十九名(西区)二十二名(北区)十六名の参加がありました。

また当日は、早朝より推進協議会の方々を始め、公民館職員、婦人会、子ども会育成連合会の多くの方々のご協力をいただきました。

司会進行をユーモアを交えて努めていただきました皆さんを始め、大正琴の演奏や、一二三会、樹峰会、婦人会の踊りや、カラオケなど、例年以上に盛り上がり新年の楽しいひとときを過ごすことができました。

ご協力いただきました皆さんに重ねてお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

あいさつは心のふれあい

出会った人と

あいさつしましよ

如月の大代

大代南 渡辺 巖

一月五日小寒、二十日大寒と辛苦の極寒季も過ぎ、微かなながら春の兆しが現れる節分もすぐです。しかし実際は、春はなのみの...

と歌われるようにまだまだ寒波・寒風の吹き荒ぶ日が続きます。

そこで、遠くない「春」に向かって日脚も次第に延びる二月の行事を覗いて見ましよう。

朔日

この日には餅を搗き、厄年の人は神棚に松を飾って餅を供え、「年重ね」といつて正月を二度繰り返します。

初午

二月に入って最初の午の日。この日に緑茶を飲むと「火早い」といわれ、麦茶を飲むものとされてきました。

節分

三日。この前後に「寒明け」の行事があります。

あぶったタヅクリを、割った豆幹に挟み、母屋の裏表の戸口や屋敷内の建物の柱の割れ目や、壁の隙間に挿して立てます。夜には豆を炒って枡に入れて『天打ち地打ち、四方打ち、福は内鬼は外、鬼の目玉ぶつ潰せ』と唱えて豆を撒きます。

立春

節分の豆撒きで邪気を払えば、翌日は「春」です。然暦の上だけのことで、

まだまだ寒さは続きます。

八日団子

生団子を作り、庭先に撒いて『鳥、鳥、団子食え』または「カロカロ団子工」と唱えて鳥に食べさせます。

また、この日は風神様といわれた笠岩権現様(七ヶ浜町要害)の祭りがあつて参詣に出かけていました。

涅槃会

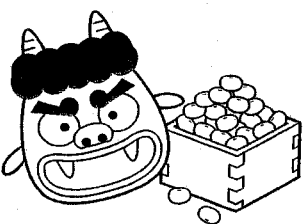
十五夜をお釈迦様が入滅した(亡くなった)日であると言ひ、団子か餅を作つて仏壇に供え、寺では涅槃会があり、寺参りをして休養日としました。

早春賦

一 春は名のみ風の寒さや
谷の鶯 歌は思えど
時に非ずと声も立てず

二 氷解け去り葦は角ぐみ
さては時ぞと思ふあやにく
今日も昨日も雪の空

三 春と聞かねば知らで在りしを
聞けば急がる胸の思いを
如何にせよとのこの頃か
如何にせよとのこのごろか



乾のり品評会で最高賞受賞

新年早々、塩釜神社に奉納された本年度産の乾のり品評会において、中区の漁業、伊藤栄さんが、最高賞の『優賞』を受賞しました。

松島湾沿岸などの十二漁業の組合員が収穫した、百八十一品の出品から、重さ、色つや、手触りなどが審査され、最高の業に輝いたもので、優賞・準優賞の出品作は、一月下旬に皇室に献上されるということです。

伊藤さんおめでとうございました。今後とも、よりよい製品づくりにお励みください。

コミュニティ推進協議会 広報部

ボウリング大会のお知らせ

お知らせ

- 期日 平成一七年二月二十七日(日)
- 時間 十時現地集合 十時三〇分開始
- 場所 一兆ボウリング場
- 参加費 一人 五百円

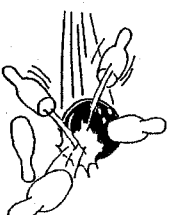
(靴代は、各自ご負担下さい)

参加賞を用意しておりますので町内の方々の参加をお待ちしております。

締め切り 平成一七年二月二〇日

申込み 大代地区公民館

コミュニティ推進協議会 体育部



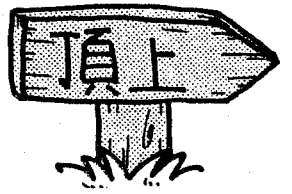
ご祝儀 お見舞いは

三 千円を限度にし

お返し物は

はしらないよう

にお互い気を配りましよう



アフリカ大陸一の キリマンジャロを制す(上)

大代東 三浦 徳男

九月十日から二十五日までの十六日間、山登りを始めて以来登頂する日を夢見ていたケニアのケニア山(五、一九九メートル)タンザニアのキリマンジャロ(五、八九五メートル)登山のツアーに参加したのである。参加した方々は大阪府、富山県、東京近県の方々と東北からは私が一人で、男性六人女性四人の十人に加え、ツアー会社から依頼されたリーダーの方と計十一名のメンバーで、平均年齢は五十五才くらいだろうか。(女性の方がいるので詳しくはわからないが)皆さんは海外登山の経験者であり、海外旅行慣れた人達である。

十一日成田空港に集合し、(二人の方は大阪空港より)十時に北海道、シベリア上空を飛んでオランダのアムステルダムを経由し、約一万五千キロ、日本から二十一時間をかけ、十二日の朝(時差六時間の遅れ)ケニアの首都ナイロビ国際空港に到着、期待と不安

を持つての第一歩である。

国際空港は古く仙台空港よりも小さいと感じた。今回の登山でケニア山に登ることは、高山病を防ぐ高所順応をはかるためである。平成七年に、マレーシアのキナバル山へ(四、一〇一メートル)登った時は高山病にはならず登ったこともあり自信をもっていったが、ケニアに入り、二日間三、〇四八

メートルの地点を出発した後で、寒さと激しい頭痛に悩まされ、食欲がなくなり行動が思いどおり出来ず、同じことを何度もやり直すことが多くなった。苦しみながらも最終小屋(四、二〇〇メートル)に着いた時は、顔がむくんでいた。風邪薬を飲んだり、リーダーから高山病の薬を進められて飲んだ後、寝袋に入り休んだら少しづついつもの自分に戻ってきた。長い間三、〇

〇メートルを超す山々を経験してきてはいるが初めてのことであった。翌五日目の十五日、午前一時にガイド三人とヘッドランプを頼りに出発、一千メートルの高度差を五時間三十分かけ全員で山頂に到着する。大分寒いが天気は良く三六〇度の展望の中で、お互い肩をたたき合い大いに喜び合った。

寒さの中で、長い時間休憩はできず早々に下山する。小屋でザックなどの整理しポーターに預け、登山口までの下りの十三時間の長い長い下山である。ロッジに着いた時には夕方になっていた。七日目の十七日に陸路タンザニ

アに入るが、国境は大型トラック等が多く、露天商なども数多くおり、人々がたむろして異様に感ずる光景だったが、タンザニアの税関で「こんにちは。」と声をかけられほっとした。

明日はいよいよアフリカ大陸一のキリマンジャロをめざす日だ。高ぶる気持ちを抑えつつ深い眠りにつく。

【つづく】



文芸短評

大代西 藤田遊子

『新しき年のはじめの初春の』

今日降る雪のいや重け吉事』

大友家持

題詞に「(延暦)三年春正月一日、因幡国の庁に、国郡の司等に饗を賜へる宴の歌一首」とあり、万葉集の最後の歌で、新年を迎えたこの日、瑞兆といわれる雪がどどん降り積もるように、願わくば慶事も積もり重なつておくれ、と詠んだ。「いや重け吉事」はどこか暗い運命の予兆だったのか、藤原氏との勢力争いの中、蝦夷との緊迫状況下で当地に三年勤務して逝去。惜しくも当地に関する歌一首及び顕彰碑さえも無いのは、永遠の謎である。

『君偲び歌碑を訪ねし春の宵』

多賀の里歌無きぞ悲しき』遊子

俳句

大代西 松浦 富雄

滔々と三寒四温最上川

遺されて待つ人の無き冬の空

過去は過去言葉いらぬ草紅葉

舟歌の錦繡の川流れ行く

日陰無き墓地肅然と冬に入る

笠神西 本郷 勝子

昏れなづむ雁群れ遊ぶ広瀬川

枯れし山魂ぬかれ飄々々々

大風に飄々漂とネコジャラシ

裸木は空の青吸い広々と

俳句

大代西 松浦 富雄

結界を黄色にそめて銀杏散る

街の子大きな声栗拾い

遺されて部屋の広さよそぞろ寒

川岸は傍若無人泡立早

転移する瘧のしぶとき冷雨降る

笠神西 本郷 勝子

七つ森墨絵のごとき冬霞

落降る芭蕉句碑をすっぽりと

さびしきは飛行雲追う秋の暮れ

霜の朝咽が痛いひとり言

夕照りに全山紅葉朱朱と